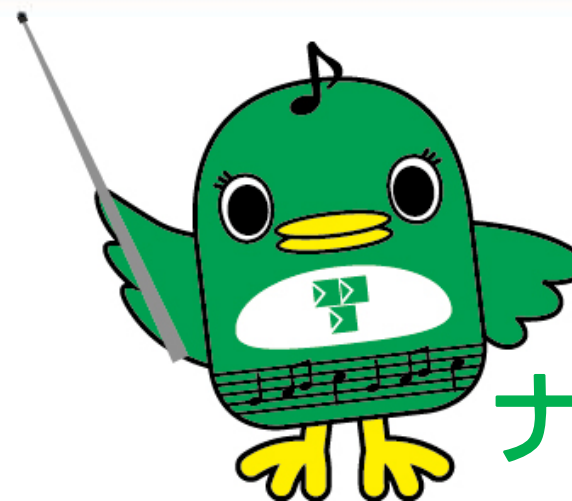


習志野市公共施設再生 地域プラットフォーム形成事業



ラムサール条約登録湿地「谷津干潟」



イメージキャラクター

ナラシド

平成28年2月16日（火）

習志野市財政部資産管理室 室長 吉川 清志

1 . 習志野市の紹介

習志野市の沿革
習志野市の概要

2 . 取組の背景

公共施設の老朽化問題は 日本の将来の大きな課題
習志野市の公共施設（建築物）の現状
公共施設再生計画を実行する際の留意点

3 . 取組の経過

4 . 取組の内容

1. 習志野市の紹介

習志野市の沿革

- 習志野市は昭和29年8月1日、**人口30,204人、面積17.66km²**を有する、県下16番目の市として誕生。
- 昭和40～50年代にかけて、高度経済成長と首都圏の人口急増等を背景に、JR総武線の複々線化や、**2度にわたる公有水面の埋め立て**により、市域が拡大。
- 昭和45年まちづくりの理念として、「**文教住宅都市憲章**」を制定し、**市民生活を最優先**としたまちづくりを推進。
- この時期に、住宅団地開発や、学校施設、幼稚園・保育所、公民館等、公共施設の整備、教育及び文化の振興、住環境の保全に力を注いだ。



1. 習志野市の紹介

習志野市の概要

- 東西 9 k m、南北 6 k m、**市域面積 20.97km²**、**人口 約17万人**。
コンパクトにまとまった市。
- 千葉県の北西部に位置。東京都心から約30km圏。
- 鉄道による所要時間は約30分程度。利便性に優れている。
- 周囲は千葉市、船橋市、八千代市と接し、前面の東京湾（海岸）は京葉港の一部。

● 平成26年度普通会計決算

- 歳入決算額：554億1千万円、歳出決算額：514億5千万円
- 財政力指数：0.897、自主財源比率：62.9%
- 経常収支比率：94.4%、実質公債費比率：7.1%

● 商工業の状況（2012年経済センサス）

- ◆ 事業所数 3,957（1位 卸売業・小売業、2位 宿泊業・飲食サービス業）
- ◆ 事業所資本金 1位 300万円～500万円未満、2位 1,000万円～3,000万円未満
- ◆ 生産総額 8,039億円（1位 サービス業、2位 不動産業）

公共施設の老朽化問題は 日本の将来の大きな課題

老朽化



2012.11.25
輪島市上野台中体育館
天井崩落



2012.12.2
中央道笹子トンネル
天井板崩落 **9名死亡**



2015.1.31
浜松市原田橋
崩落 **2名死亡**



2011.10.25
福岡県直方市
陸橋崩落



2013.10.15
東京都港区
区道崩落

公共施設の老朽化問題は 日本の将来の大きな課題

平成25年6月 経済財政運営と改革の基本方針、日本再興戦略

- インフラの老朽化が急速に進展 「新しく造ることから賢く使う」
- 民間の資金・ノウハウを活用することにより、公的負担の軽減を図る。



インフラ長寿命化基本計画

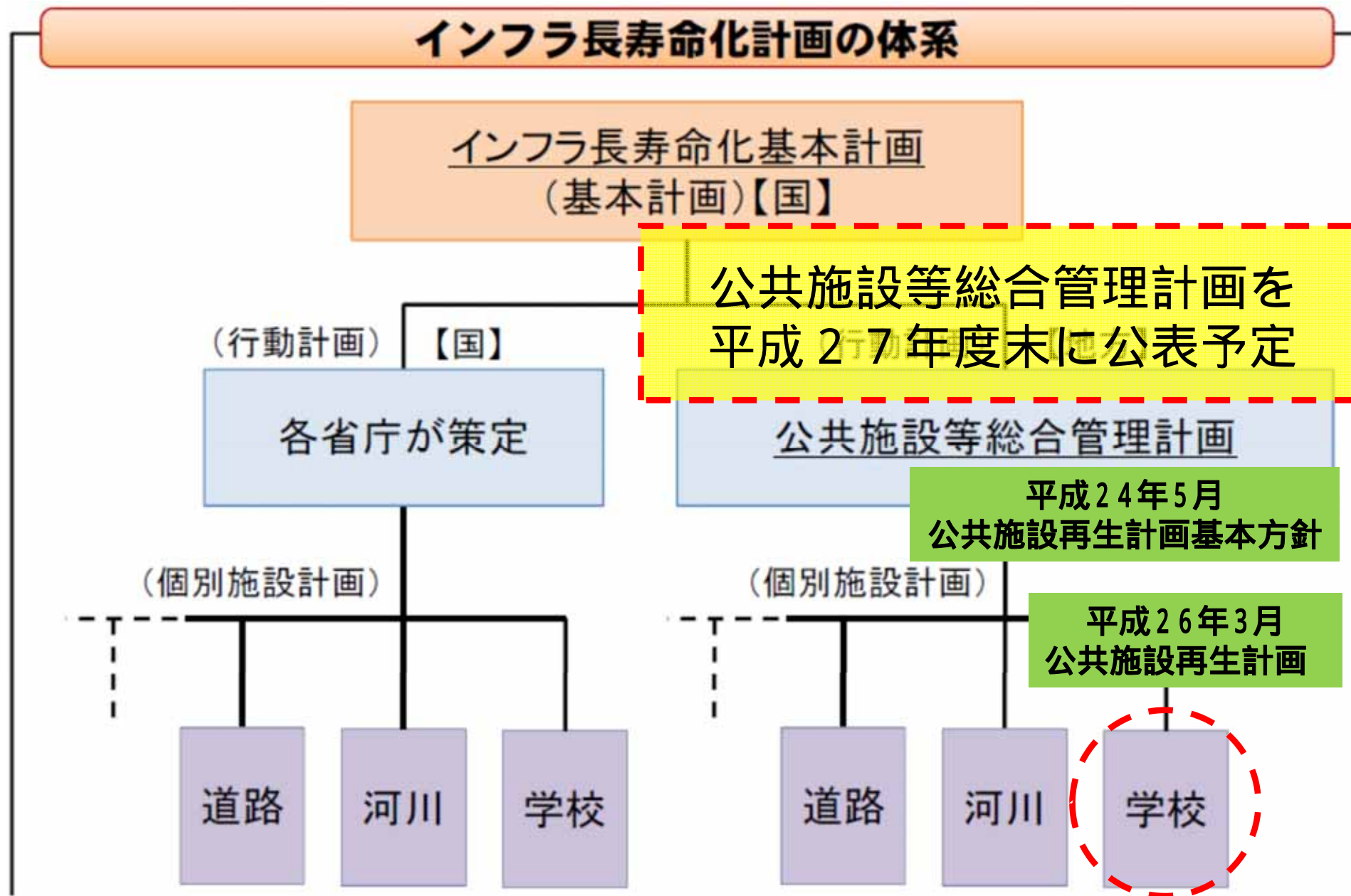
- 平成25年11月29日、関係省庁連絡会議にて決定。
- 平成25年12月3日、総務省から各自治体に対し通知。



公共施設等総合管理計画

- 全国の自治体が平成26年から3年間のうちに策定。
- 習志野市は平成24年5月に早々と「公共施設再生計画基本方針」を策定。

公共施設の老朽化問題は 日本の将来の大きな課題



2. 取り組みの背景

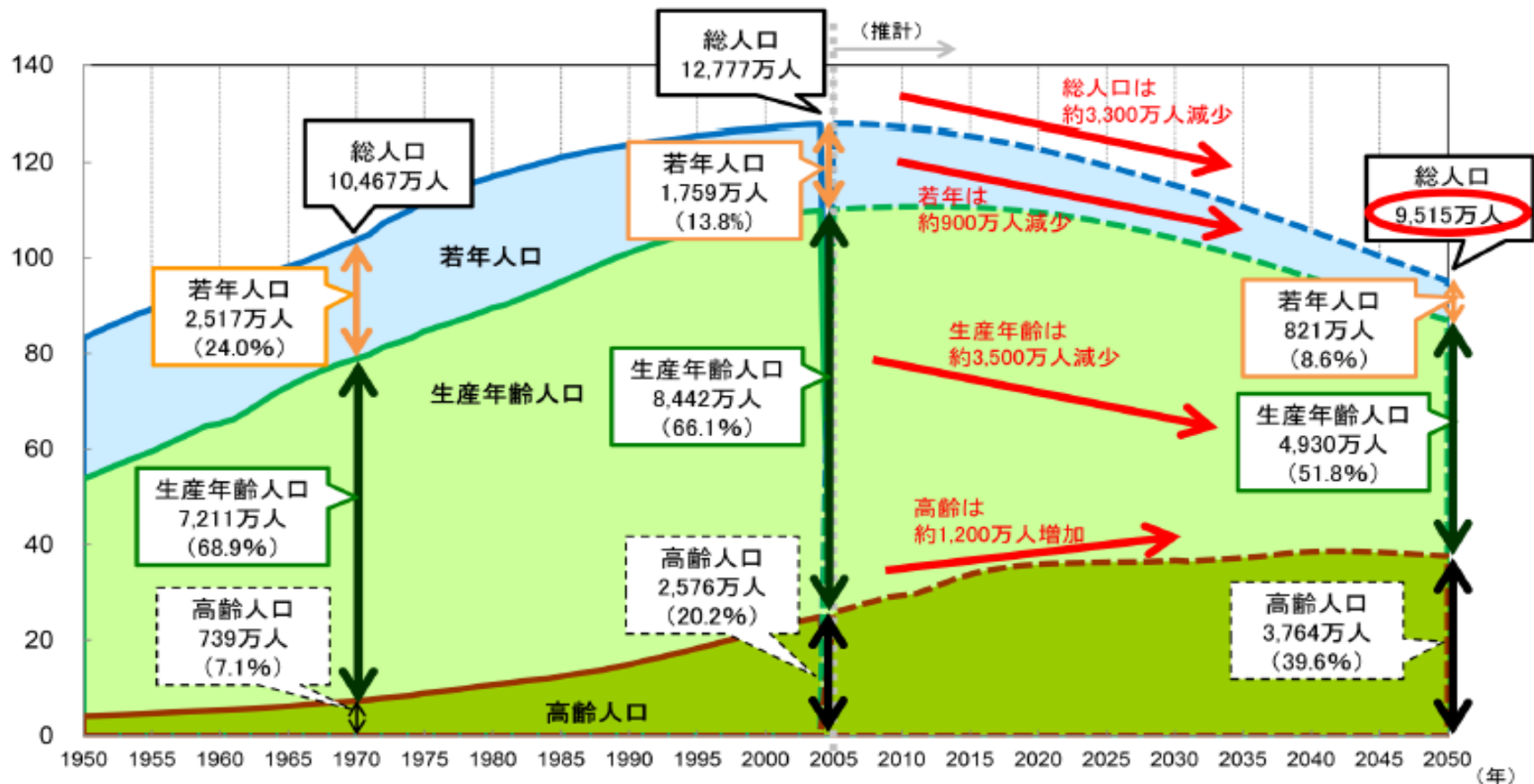
公共施設の老朽化問題は 日本の将来の大きな課題

人口減少・少子高齢化



税収の減少・過剰な資産
社会保障費の増加

- 我が国の総人口は、2050年には9,515万人となり、約3,300万人(約25.5%)減少。
- 高齢人口が約1,200万人増加するのに対し、生産年齢人口は約3,500万人、若年人口は約900万人減少。その結果、高齢化率は約20%から約40%に上昇。



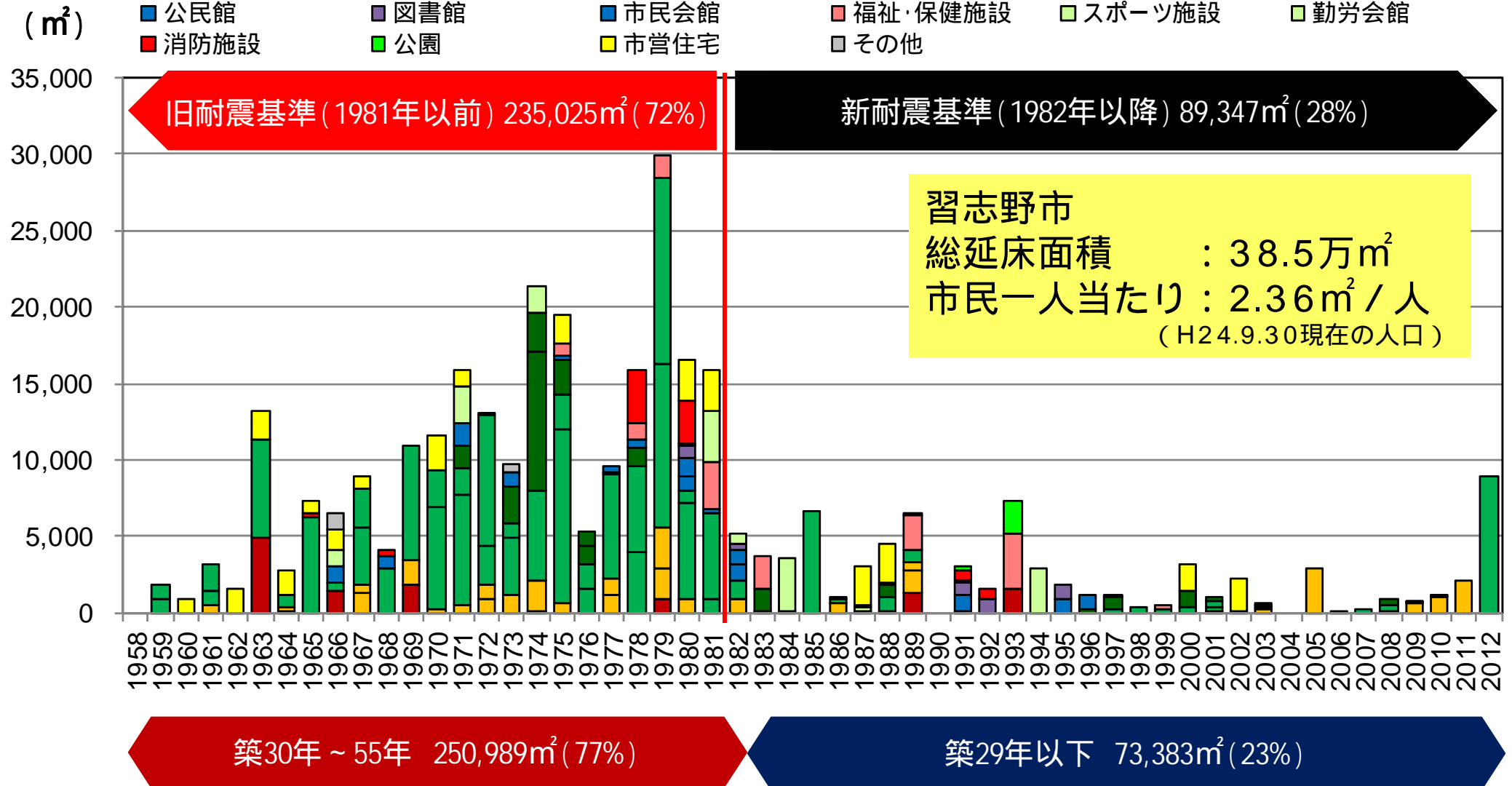
(注1) 「生産年齢人口」は15～64歳の者の人口、「高齢人口」は65歳以上の者の人口
 (注2) () 内は若年人口、生産年齢人口、高齢人口がそれぞれ総人口のうち占める割合

(注3) 2005年は、年齢不詳の人口を各歳別に按分して含めている
 (注4) 1950～1969、1971年は沖縄を含まない

2. 取り組みの背景

習志野市の公共施設(建築物)の現状

- | | | | | | |
|--------|-------|--------|-----------|-----------|----------|
| ■ 市庁舎 | ■ 保育所 | ■ 幼稚園 | ■ こども園 | ■ こどもセンター | ■ 児童会 |
| ■ 小学校 | ■ 中学校 | ■ 高等学校 | ■ 教育施設等 | ■ 青少年施設 | ■ 生涯学習施設 |
| ■ 公民館 | ■ 図書館 | ■ 市民会館 | ■ 福祉・保健施設 | ■ スポーツ施設 | ■ 勤労会館 |
| ■ 消防施設 | ■ 公園 | ■ 市営住宅 | ■ その他 | | |



平成24年10月現在。対象外とは、クリーンセンター、リサイクルプラザ、自転車等駐車場等を指す。

2. 取り組みの背景

試算の条件

(億円)

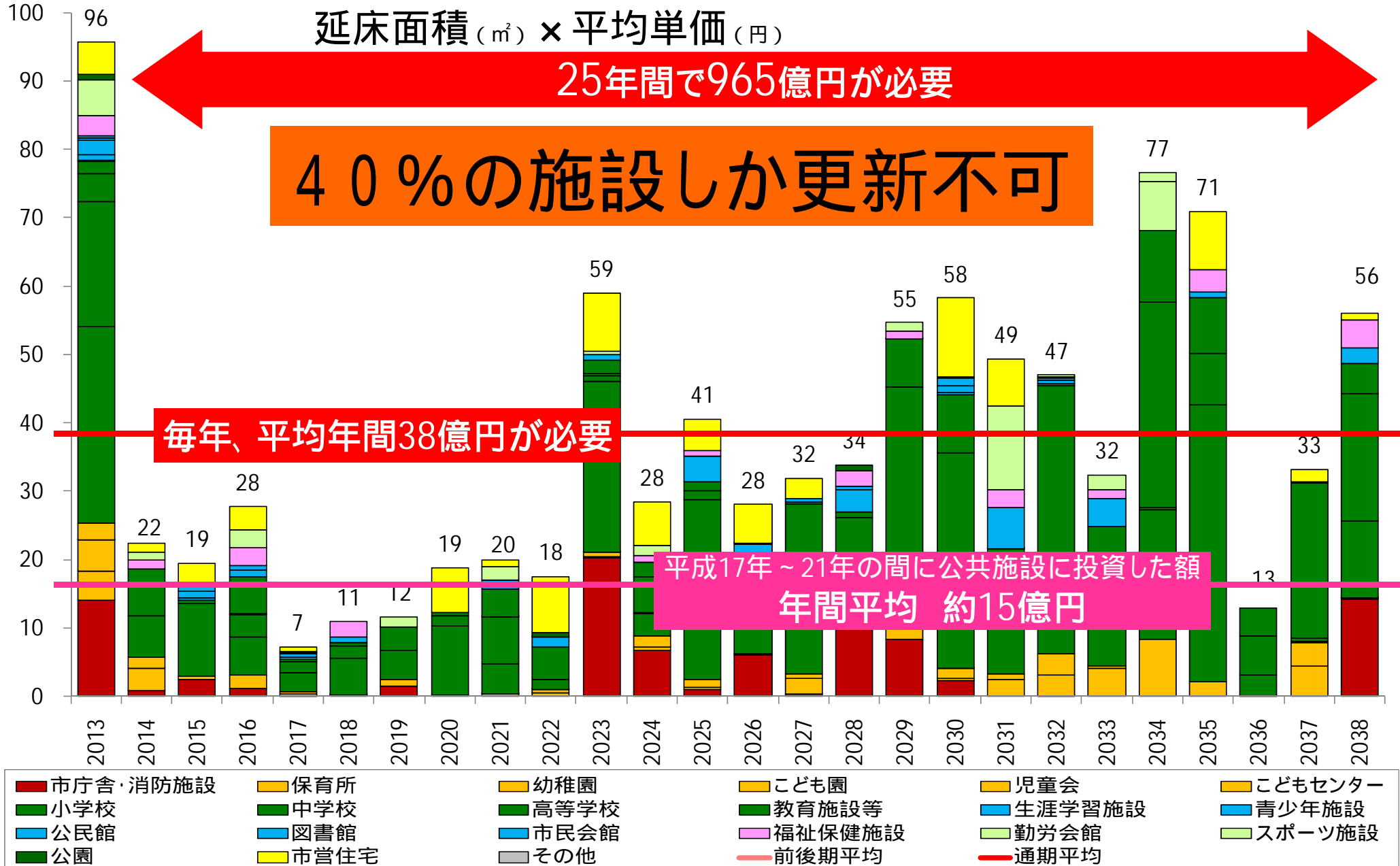
築60年（鉄筋コンクリート造）で建替えると仮定
 大規模改修と建替え費用を試算（小規模な倉庫等は除く）
 延床面積（㎡）× 平均単価（円）

25年間で965億円が必要

40%の施設しか更新不可

毎年、平均年間38億円が必要

平成17年～21年の間に公共施設に投資した額
 年間平均 約15億円

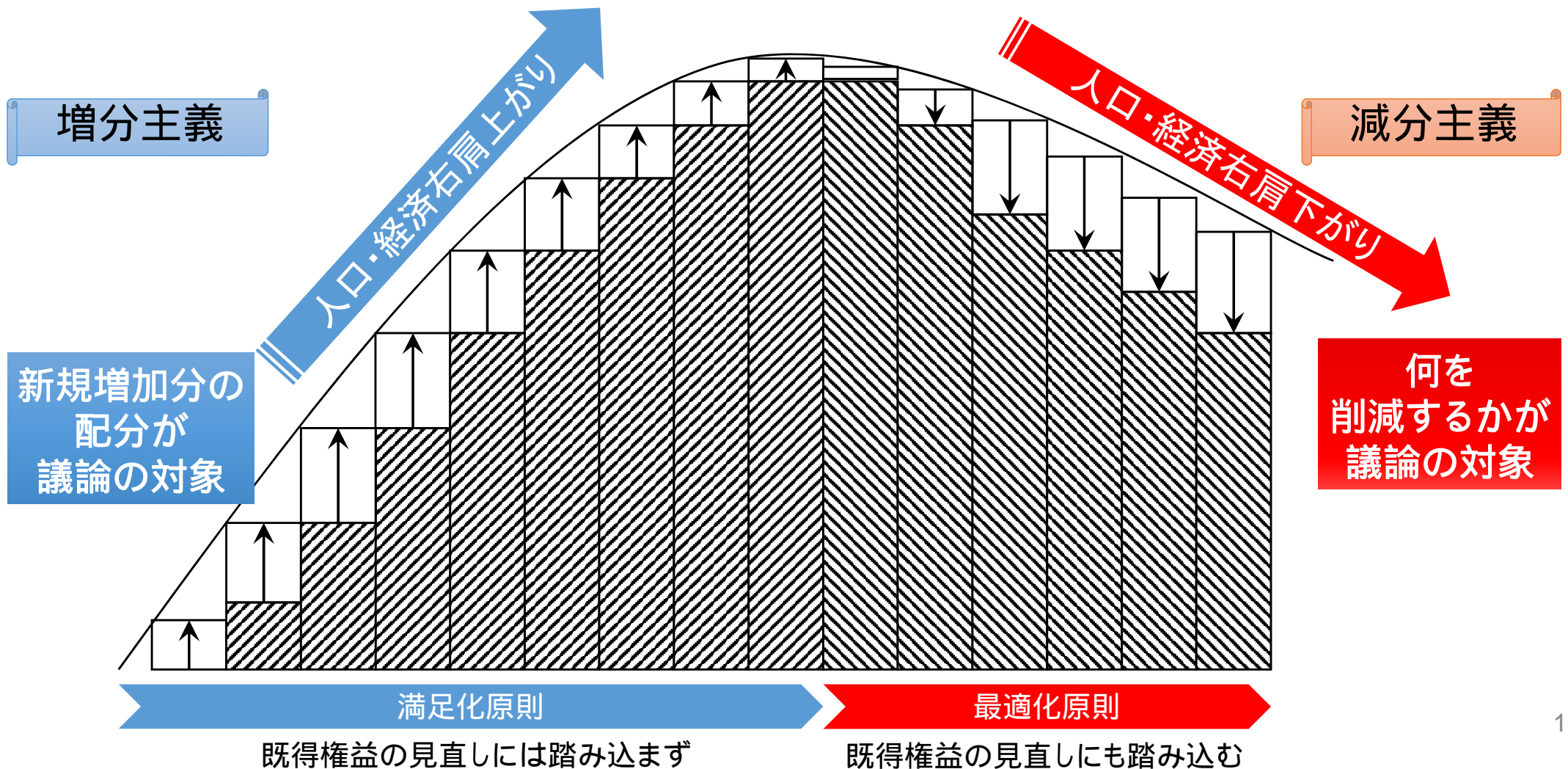


2. 取り組みの背景

公共施設再生計画を実行していく際の留意点

「量」から「質」への価値観の転換が必要

「物による豊かさ」から「質を高めた幸福感」を希求する社会への転換



2. 取り組みの背景

公共施設再生計画を実行していく際の留意点

スマート シュリンク 【smart shrink】

急激に人口減少が進む中で、住民の生活の質を維持向上していくための地域マネジメント手法を示した考え方。

拡大・成長に下支えされているシステムを見直し、地域が積極的に公共事業や公共サービスの供給を効率化する一方、特異性を見出して地域間競争力を確保するなど、選択と集中をおこなうことで理想的な規模を維持できるよう

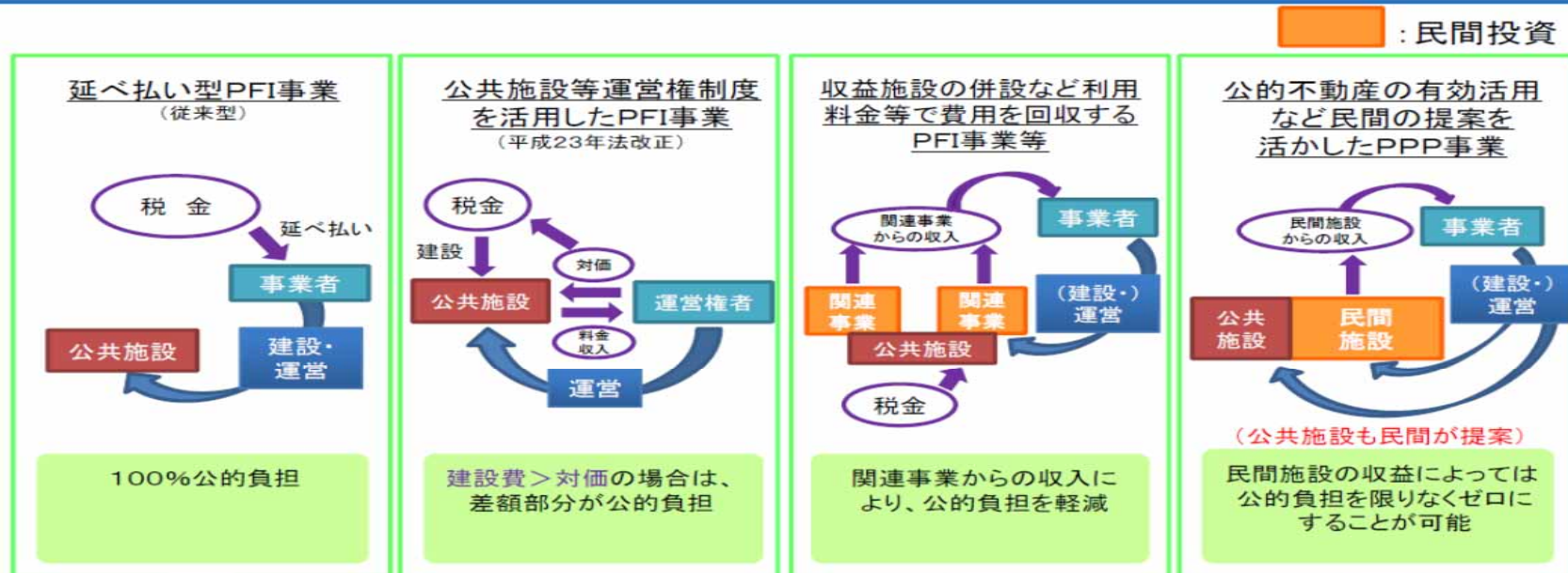
「賢く収縮」する意味。

2. 取り組みの背景

公共施設再生計画を実行していく際の留意点

- 公共施設再生計画を実行していくためには、現在の地方自治体の置かれた厳しい財政環境から、**民間活力の導入が不可欠**であり、行政と民間が、お互いに相手の立場、性格を理解し、適切に役割分担を行いながら具体的な事業を進めて行くことが必要。
- 平成25年6月6日、国は、PPP・PFI抜本改革アクションプランを公表。

PPP/PFIの抜本改革



民間の創意工夫・シナジー効果

平成26年3月 習志野市公共施設再生計画 策定

約120の公共施設を対象にした再配置計画
平成26年度～平成50年度までの25年間にわたる長期の計画

今後の人口減少社会の限られた財源の中で計画を進めていくには、
PPP/PFIといった官民連携による事業手法が有効。

持続的に実施していくためには、**地元事業者の参画が必要**。

まずは地元事業者にPPP/PFIについて知っていただくことが第一歩

平成26年7月、11月 習志野商工会議所と協力して研修会の開催

対象 市内事業者、 参加 1回目 30名、2回目 18名

講師 1回目 習志野市資産管理室長

2回目 公有資産活用まちづくりアドバイザー（市非常勤。官民の視点からPFIに精通した方）



地域プラットフォームの形成の必要性の認識

平成27年4月 内閣府にプラットフォーム形成事業の応募

平成27年6月 習志野商工会議所と協力して研修会の開催

3回目、対象 市内事業者、参加 19名
講師 公有資産活用まちづくりアドバイザー（2回目と同じ）

平成27年6月 国「経済財政運営と改革の基本方針2015」

平成27年6月 内閣府からのプラットフォーム形成事業の採択決定

平成27年11月～2月 セミナーを開催（3回）

平成27年12月 国「多様なPPP/PFI手法導入を優先的に検討するための指針」



セミナーの様子



4. 取組の内容

第1回

日時 平成27年11月26日（木） 14:00～17:00
 講演 70分、ワークショップ 50分

参加者 地元事業者（20社、登録23社）
 金融機関（3行、千葉銀行、京葉銀行、千葉興業銀行）
 習志野商工会議所、中小企業診断士（1名）
 習志野市

内容 内閣府講演「**PPP/PFIの推進について**」
 平田建築設計株式会社平田代表取締役講演 西宮市で受託
 「**地場企業参画型の公民連携事業について**」
 ワークショップ：テーマ「**PPP/PFIに取り組む意義について**」
 名刺交換会

【アンケート結果】

19名の回答者のうち

18名が今後も参加を希望。

18名が全体として参考になった。

課題（複数回答）

PPP手法の知識がない（9名）

コンソーシアム組成のネットワークがない（8名）

事業開始後のリスク負担が不安（8名）

利益につながると思えない（8名）

第2回

日時 平成28年1月12日（火） 14:00～17:00
 講演 70分、ワークショップ 65分

参加者 地元事業者（13社、登録24社）
 金融機関（3行、千葉銀行、京葉銀行、千葉興業銀行）
 習志野商工会議所、中小企業診断士（1名）
 習志野市

内容 株式会社日本経済研究所講演「**実施方針の見方について**」
 株式会社千葉銀行講演「**PFIの資金調達について**」
 ワークショップ：テーマ「**地域で取り組むPPP事業について**」
 名刺交換会

【アンケート結果】

19名の回答者のうち

全員が全体として参考になった。

意見

回を重ねる毎に理解が深まっている
 PPPに取り組むことで、市内の企業の
 質の底上げになれば良い

地元企業との情報交換がよかった
 建設業以外の他業種の参加も希望
 講演内容についていけない

4. 取組の内容

職員研修会

日時 平成28年1月29日(金) 10:00~11:30
テーマ PPP/PFIの概要・動向と活用事例について
講師 株式会社日本政策投資銀行
参加 40人

【アンケート結果】

研修前との関心度
とても上がった 30%、少し上がった 54%
(下がったはいなかった)
プラットフォームへの希望としては、
「基礎的な知識・ノウハウの習得」が1位

第3回

日時 平成28年2月19日(金) 13:00~16:30
内容 大手事業者の講演、地域の事業者(市外)の講演、習志野市からの報告、交流会

平成27年度は地域における官民連携のネットワークづくりやノウハウ共有を図るための基盤づくり第一歩を踏み出した年度

地域の実情に応じた対応が必要(経済圏、事業者の規模及び種別)

参加者に意識の変化の胎動

長期的な視点で、参加者とのコミュニケーションを行い、**信頼関係**を築くことが肝要

平成28年度も継続実施



参加者がともに意識を高め、今後、**地域の事業者がPPP/PFI事業に参画へ。**
そして地域経済の健全な発展へ。

ご清聴
ありがとうございました！



イメージキャラクター
ナラシド

習志野市役所 資産管理課
仮庁舎（京成津田沼駅前ビル）2階
電話：047 - 453 - 9308
メール：zaikan@city.narashino.lg.jp